

第3学年 学級活動指導案

情報活用能力研究部

- 1 題材 テレビって楽しいな！！（健康で安全な生活態度）
- 2 指導計画
 - (1) 友達の依頼に答える出来事について話し合おう…1時間
 - (2) 健康を害する出来事について話し合おう…1時間
 - (3) 友達の依頼、健康を害する出来事について話し合おう…1時間(本時)
- 3 本時の指導と児童の活動

(1) 目標

テレビを長時間見ることによって生活のリズムが変化する危険性に気付き、節度をもって視聴することができる。

(2) 準備 考えキャッチシート、教師作成プリント「テレビって楽しいな！！」

(3) 本時の展開

時間配分	活動内容	指導上の留意点
3分	1 ついついテレビを見過ぎてしまった経験を発表する。	○ 経験をいくつか引き出し、課題に興味をもたせると共に、自分の問題として考えることができるようにする。
7分	2 資料から、主人公「たけし」の葛藤状況を確認する。	○ メモ用紙に聞き取ったことのメモをとらせ、登場人物の関係を整理しやすくする。
5分	3 「たけし」は、テレビを見続けるべきか、やめるべきか、を考える。	○ テレビを見続けるべき派と、やめるべき派がグループ内で討論できるように、座席の配置を考える。
主発問：「たけし」はテレビを見続けるべきか、やめるべきか、理由を明らかにして発表しましょう。		
20分	4 話し合いをする。 ・ テレビを見続けるべき派 ・ やめるべき派	○ 考えキャッチシートを用いて、論点を明確にして、話し合いをさせる。 ○ 友情を重視する意見、節度を重視する意見、中立の意見を付箋紙にそれぞれ分類しながら意見を聞くようにさせる。 ○ 自分の体験をふまえて考えを発表すると、より説得力が増すことを伝える。 ○ 考えを見直して、まとめることができるように呼び掛ける。
<p>評価事項</p> <p>友達の依頼に答える出来事と健康を害する出来事の間にかかる葛藤について話し合っていく中で、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにする。【考えキャッチシート・発言】 □・・・話し合い活動を通して気付いたことが記述できない児童には、友達の意見で良いと思ったことを書かせる。 ☆・・・テレビ以外でも似たようなことは起こらないかを助言し、日常生活の場面で生かすことができるようなケースを考えさせる。</p>		
10分	5 授業を振り返り、まとめを書く。	○ 話し合いを通して気付いたことを書かせる。

※斜体…情報活用能力を育成する学習活動

・ 資料「テレビって楽しいな！！」

テレビって楽しいな！！

たけしくんは、テレビを見るのが大好きな3年生。だめだと分かっているのですが、あと5分あと30分と思いながら、つついテレビをみすぎてしまいます。そして、宿題をやる時間がなくなってしまい、あとで後かいするときもありました。朝あわてて宿題をやって登校したり、時には朝学校で宿題をするような日もありました。この前、お母さんに「たけし、テレビをみてはいけないというわけではないけど、あまり見すぎると目が悪くなるわよ。あなた、学校の成績も悪くなってきたじゃない。いつも、あなたは後になってから後かいするんだから。これからは、テレビをみる時間は1時間までにしなさいね。」と言われ、たけし君は「わかってるよ。うるさいなあ。自分のことは自分でやってるよ！」と、答えながら、このごろ、寝不足で学校の勉強も分からなくなってきたり、休み時間にもウトウトしてしまっていたりする自分を思い出していました。そして、お母さんに言われたように、テレビをみる時間を1時間以内にするように気を付けるようになりました。そうするうちに生活のリズムも戻ってきました。

もうすぐ梅雨が明ける7月のこと、たけし君は友達のうちき君の家に遊びに行くことになりました。

たけし君とうちき君をふくめた4人グループは、2年生の時から大のなかよしで、休み時間や放課後までいつも一緒にすごしていました。しかし、3年生へ進級した時のクラス替えで、うちきくんだけ別のクラスになってしまいました。うちきくんは「みんなが遊びに来てくれてうれしいな。新しい友達がなかなか出来なくて、たけし君たちと遊べる時間がとても大切に思えるんだ。」と言いながら本当に楽しそうにすごしていました。

たけし君たちが楽しく遊ぶ時間もあっという間にすぎてしまい、お昼になりました。うちき君のお母さんが「みんな、おまたせ。ごはんですよ。おぼさんがみんなの好きなものいっぱい作ったから、どんどん食べてね。」とってくれました。

みんなで、楽しく食べ始めました。うちき君は、みんなと一緒にサンドウィッチ、ケーキなどいろいろなものを食べたり飲んだりして、とっても楽しそうにしていました。するとうちき君は「今人気の番組『進め！子ども調査隊！』って知ってる？子どもたちがそれぞれ疑問に思っていることをあげて、一つずつみんなで解決していく番組だよ。番組の中では、投稿したことを解決もしてくれるよ。」と言われ、みんなは「知ってる知ってる！ぼく投稿したよ！」といて、明日から4人で投稿して毎日欠かさず見ようということになりました。

帰り際、うちき君のお母さんがたけし君を呼び止めました。

「うちきは、3年生になって少し元気がないの。お友達できたのかしら。心配だね。これからもうちきと仲良くしてね。今日はありがとう。」たけし君はうちき君のお母さんの話を聞きながら、今日の楽しそうなうちき君の笑顔を思い出して、安心していました。

次の日、たけし君は学校から帰ると、ランドセルを投げ出し真っ先にテレビの前に座りました。今日は、うちき君たち仲よし4人組で、番組をかくにんする日です。ワクワクする気持ちで、テレビの電源を入れました。

大好きなテレビ番組をみていると、30分などあっという間に過ぎてしまいます。今日に限って番組が2時間スペシャルになっていて、これからだという所でテレビをみ始めて1時間がすぎようとしています。たけし君が「テレビは1日1時間って決まっているんだ。悪いけど僕は切るね。」というと、うちき君が「みんなでもっとみたかったな。あと30分だけ、だめかなあ。」と言い、他の友達も「少しぐらいなら、大丈夫だよ。みようよ、みようよ！」とってくれました。

たけし君は、「もう少しぐらいならみ続けてもいいかな。」と思いましたが、せっかく生活のリズムも戻ってきたのに、また前のように家でテレビばかりみている生活になってしまうのではないかと、不安になってきました。でも、もしここで自分がやめてしまうと、うちき君がさみしい思いをするのではないかも思いました。うちき君のお母さんの、「うちきをよろしく」という言葉も胸をよぎりました。

たけし君は、どうしたらよいかまよってしまいました。

発問：「たけし君はテレビをみ続けるべきでしょうか。それともやめるべきでしょうか。」